様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：８２４０６
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ１７４３０

研究課題名（和文）子育てと介護のダブルケアをしている看護師の健康に関する研究

研究課題名（英文）Study of health among nurses with raising children and elderly care

研究代表者
永井　菜穂子（Nagai, Nahoko）

防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・講師

研究者番号：１０７７９５７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は看護師のダブルケアの実態と、心身の健康との関連について明らかにした研究である。調査の結果、ダブルケアをしている看護師の年齢は40歳代が全体の51%と多く、50歳代が41%、30歳代が8%であった。ダブルケア中の看護師の子供の数は1.9±0.8人、介護をしている人数が一人ではなく、二人の割合は19%であった。　SF-36V2の結果より、8つの下位尺度で対象者の得点が国民標準値より低かったのは、8つ中7つあり、特に活力が最も低かった。サマリースコアは、ダブルケアをしている看護師は、子育てと介護をしていない看護師と比べて、役割／社会的健康度が有意に低いことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
マルチタスクで忙しい日々を過ごしているダブルケア中の看護師は、疲れを日常的に感じており、ふだんの家族を含めた周囲の人との付き合いが妨げられている。これらをふまえ、職場環境の整備を含めた具体的なサポートをしていく必要がある。そして、現在ダブルケアではないが、近い将来ダブルケアを行う可能性のある若い世代が、健康で働き続けることができるような支援を構築していくことが重要である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is revealed the reality of double care of the nurse with raising children and elderly care, and the relationship between physical and mental health. The results of the study that the age of nurses doing double care is 51% were in their 40s, 41% were in their 50s, and 8% were in their 30s. Nurses doing double care have 1.9 ± 0.8 children, 19% of them were elderly care for two people. The health-related QOL (SF-36V2) consists of 8 subscales, 7 out of 8 scores were lower than the national standard. In particular, the score of vitality was the lowest. Nurses doing double care were significantly lower Role/Social Component Summary than nurses with no raising children and no elderly care.

研究分野：健康教育

キーワード：ダブルケア　精神的健康度　身体的健康度

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

少子化、高齢化社会、晩婚化や出産年齢の高齢化等により、子育てと仕事の両立・介護と仕事の両立をそれぞれ考える時代から、子育てと介護を同時に行いながら仕事をしていくことが新しく社会問題化され、ダブルケアは身近な問題となりつつある。ダブルケアについてはケア負担や援助者のニードについて調査が始まったところであり、援助者の健康面という視点での研究調査はされていない。ダブルケアをしている看護師が心身の健康を保つことは就業継続に重要な要素であると考える。

女性の社会進出が進み、看護界においてもワークライフバランスの考えが取り入れられ、多様な働き方をしながら、ライフイベントを両立する看護師が増えてきつつある。しかし、介護離職は年間 10 万人超、出産前に就業していた女性の 6 割が出産後離職してしまうという現実がある（内閣府．2015）。看護師においては、離職率は毎年 10 数%、超少子・高齢化が進む 2025 年の需給見通しにおいては、約 12 万人の不足であるといわれている。（厚生労働省．2010）

看護師の離職理由の上位はライフイベントと健康問題である。ライフイベントと仕事を両立する際、子育てと仕事の問題が一段落したのちに、介護と仕事の問題を抱えることが多かった。しかし、晩婚化・出産年齢の高齢化により、子育てと親等の介護を同時にしなければならないダブルケア世帯が増えつつあり、今後も増加していくことが予想される。

超高齢化社会で看護師不足が叫ばれるなか、2015 年に女性活躍推進法が施行され、90%以上が女性職員である看護師がダブルケアをしながら健康で働き続けることが望まれる。夜勤を含む多様な働き方をしながら専門職として活躍する看護師が増加することで、今後の超高齢化社会への対応と社会への貢献となる。ダブルケアをしながら仕事を継続するための対策を検討することは急務であると考える。

２．研究の目的

看護師のダブルケアの実態と、心身の健康との関連について明らかにすることを本研究の目的とした。

【用語の操作的定義】

・ダブルケア：子育てと介護を同時にしている状態。
・子育て：経済面、日常生活面で自立していない子供を養育していること。
・介護：同居の有無にかかわらず、実親・義理親、祖父母などの親族の日常生活上のサポートをしていること。買い物代行、精神的支え、愚痴を聞く、定期的な電話での安否確認、介護サービスのマネージメント等を含む。

３．研究の方法

病院機能評価を Web で公開している首都圏 499 施設の看護管理者に対し、研究協力依頼文書を送付。研究に同意していただいた施設の看護師約 1000 人を対象として、自記式質問紙調査による横断的調査を実施した。調査内容は、子育て・介護の有無、健康関連 QOL（SF-36v2）、個人属性（性別、年齢、既往歴、内服の有無）、健康リスク行動（飲酒、喫煙、肥満）、睡眠状況、勤務形態、子育て・介護のサポート体制等の項目である。SF-36V2 は、世界で最も広く使われている健康状態調査票である。包括的な健康概念を 8 つの領域（身体機能、日常役割機能（身体）、体の痛み、全体的健康感、活力、社会的機能、日常役割機能（精神）、心の健康）によって測定するよう組み立てられており、身体的・精神的・役割／社会的側面の健康を表す 3 因子のサマリースコアで表す。

分析方法は、実態把握のために個別要因と SF-36v2 の下位尺度得点の記述統計量を求めた。また、ダブルケアをしている看護師、介護のみをしている看護師、子育てのみをしている看護師、介護と子育てをしていない看護師の 4 つの群に分け、SF-36v2 サマリースコア得点の多重比較をおこなった。

４．研究成果

1043 名の調査票配布に対し、509 名回収した（回収率 48.8%）。有効回答は 484 名であった。484 名中、ダブルケアをしている看護師が 39 名(8%)、介護のみをしている看護師が 27 名(6%)、子育てのみをしている看護師が 246 名(51%)、介護と子育てをしていない看護師が 172 名(35%)であった(表 1)。

ダブルケアをしている看護師の年齢は 40 歳代が全体の 51%と多く、50 歳代が 41%、30 歳代が 8%であった。ダブルケア中の看護師の子供の数は 1.9±0.8 人、介護をしている人数が一人ではなく、二人の割合は 19%であった（表 2）。SF-36v2 の結果より、8 つの下位尺度で対象者の得点が国民標準値より低かったのは、8 つ中 7 つあり、日常役割機能（身体）、体の痛み、全体的健康感、活力、社会生活機能、日常役割機能（精神）、こころの健康であり、特に活力が最も

低かった（表 3）。

サマリースコアは、ダブルケアをしている看護師は、介護と子育てをしていない看護師と比べて、役割／社会的健康度が有意に低かった（p<0.05）（表 4）。また、介護のみをしている看護師は、介護と子育てをしていない看護師と比べて身体的健康度が有意に低かった（p<0.05）。

表１　対象者全体の概要　　n＝484

項目		n	%
ダブルケアをしている		39	8
介護のみしている		27	6
子育てのみしている		246	51
介護と子育てをしていない		172	35
年齢	20歳代	70	14
	30歳代	143	30
	40歳代	175	36
	50歳代	83	17
	60歳代	13	3
性別	女性	443	92
	男性	41	8

表2　ダブルケアをしている看護師の概要　　n＝39

項目		n	%	mean±SD
年齢	20歳代	0	0	
	30歳代	3	8	
	40歳代	20	51	
	50歳代	16	41	
	60歳代	0	0	
性別	女性	38	97	
	男性	1	3	
既往	あり	21	54	
	なし	18	46	
内服	あり	12	31	
	なし	27	69	
飲酒	毎日	14	36	
	機会飲酒	10	26	
	なし	15	38	
喫煙	あり	3	8	
	過去にあり	14	36	
	なし	22	56	
BMI	18.5未満	4	10	
	18.5以上25.0未満	26	67	
	25.0以上	9	23	
子どもの数	1人	13	34	
	2人	16	42	1.9±0.8
	3人	8	21	
	4人	1	3	
	未記入	1		
介護をしている数	1人	30	81	
	2人	7	19	1.2±0.4
	未記入	2		

表3　SF-36v2の下位尺度の平均値と標準偏差

	n		身体機能 PF_N	日常生活役割機能 RP_N	体の痛み BP_N	全体的健康感 GH_N	活力 VT_N	社会生活機能 SF_N	日常生活役割機能精神 RE_N	心の健康 MH_N
全体	484	mean	50.1	46.9	46.5	49.8	41.3	44.7	47.0	44.9
		SD	8.8	11.3	10.3	9.4	10.4	12.0	10.3	10.2
介護と子育てをしていない	172	mean	50.2	47.7	46.4	50.4	41.0	44.9	47.2	44.3
		SD	9.7	11.4	10.5	9.2	10.7	11.8	10.4	10.4
ダブルケアをしている	39	mean	50.3	43.2	45.1	49.6	40.0	40.2	43.6	44.4
		SD	7.5	13.4	9.6	9.2	12.3	13.7	11.0	11.3
介護のみしている	27	mean	47.7	46.4	43.9	46.9	42.1	45.8	49.4	44.6
		SD	9.2	10.7	9.4	9.1	10.2	11.8	8.9	9.6
子育てのみしている	246	mean	50.3	46.9	47.0	49.8	41.7	45.1	47.2	45.4
		SD	8.3	10.9	10.2	9.6	9.8	11.8	10.1	9.9

表4　ダブルケアの有無によるSF-36v2サマリースコアの比較

	n		身体的健康 PCS	精神的健康 MCS	役割／社会的健康 RCS
介護と子育てをしていない	172	mean	53.1	43.5	46.0
		SD	10.7	10.3	11.8
ダブルケアをしている	39	mean	53.4	44.1	40.4*
		SD	8.3	10.4	13.7
介護のみしている	27	mean	48.0*	43.2	49.5
		SD	9.0	9.6	10.2
子育てのみしている	246	mean	52.4	44.5	46.0
		SD	9.1	9.9	12.0

＊ $p < 0.05$　Dunnett検定

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 永井菜穂子　大和広美　椙田広明
２．発表標題 保健医療福祉分野におけるダブルケア研究の動向と課題
３．学会等名 第40回看護科学学会学術集会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関